

中国5県コロナ対応緊急支援助成（第2期）

公募結果

■ 概要

選考結果	採択
団体名	NPO 法人 環境保全創生委員会
代表者名	中原 健治
申請事業名 主題	広島南コア・フードバンク事業
申請事業名 副題	
エリア／テーマ	【広島県】実行団体のハード整備と組織基盤強化を通じた、必要とされている方への食支援事業
解決すべき社会課題	① 経済的困窮など、家庭内に課題を抱える子どもの支援 ④ 働くことが困難な人への支援 ⑦ 安心・安全に暮らせるコミュニティづくりへの支援
申請事業の概要	<p>今回、申請に当たっては、20年間にわたる社会福祉事業のノウハウと上記事業経験等を活かしフードバンクを開設しようとするものです。具体的には、提供ビル1階部分に、次の設備を設置し、フードバンクとして運用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3Dフリーザー、急速冷凍庫、冷蔵庫、サツマイモ、玄米等保管庫の設置 ・大型焼き芋機（最大能力、サツマイモ 200g/本 × 500～700 本/日）の設置 <p>大型焼き芋機は、災害時や新型コロナウイルス感染症陽性患者宿泊療養者の副食用として大量に供給することができます。また、本事業においては土地、建物の無償貸与と、本助成を受けることにより、最新食品保管設備を導入し、経済的弱者、高齢者、子供たちに完全栄養食「焼き芋」を迅速に提供することも可能となります。そして、広島南全域をカバーする“ハブ的機能”を有したフードバンクを設置しようとするものです。</p> <p>なお、自己完結による長期継続運営の観点からランニングコストは極力抑制するため、人件費は地元のボランティアバンクの活用、NPO 会員の増員等により、自立運営を目指しています。</p>
事業実施地域	広島市南地域
申請事業期間	（開始月）2021年6月～（完了月）2021年12月
申請助成額	11,400,000 円 【内訳】直接事業費 9,400,000 円、管理的経費 2,000,000 円

■ 審査コメント

- ✓ 代表の強力なリーダーシップによる運営がなされている団体と思われる。施設運営なども行っており、組織体制が整っていないわけでもなく、かつボランティアな要素も大きいため、事業実施に大きなリスクはないと思われるが、代表一人ではなく組織全体（後継者等も含む）で取り組む体制を期待する。
- ✓ 自らリスクをとる姿勢があり、代表の取り組み意欲は高いと感じる。
- ✓ 不動産の拠点は確保できており、ハード面は問題ないと思う。
- ✓ 事業計画の具体化、人的基盤等の整備が必要と感じる。
- ✓ 事業目的、代表者の献身的な活動姿勢と実績など公益性の点において素晴らしいと思う。
- ✓ 一方、組織として事業運営にあたる体制、直面する課題を解決する活動の先にどのような計画など、事業性については不十分と感じる。
- ✓ フードバンク運営の仕組みが申請書類からみえない。
- ✓ 焼き芋機の必然性が『？』サツマイモの仕入れ先、販路、損益計算などが読み取れない。
- ✓ 代表の力強いイメージ、リーダーシップ強い組織のように感じたが、色んな方が関わっているという事で安心もできる。
- ✓ 一般的に、カリスマ的な代表がけん引する組織は、代表がいなくなったらどうなるのか心配。
- ✓ 社協やコミュニティの繋がり強く、強いネットワークの構築に期待。
- ✓ 子ども食堂、フードバンクの生活困窮者のネットワークがないような気がする。
- ✓ 生活困窮者自立支援制度に紐づくネットワークも作れると思う。包括的なネットワークを構築いただき地域福祉を支えてほしい。
- ✓ 代表者が不動産を無償提供というところで魅力的。
- ✓ 事業の計画具体性、人材、どのように運営するのかは不透明。
- ✓ この助成金については今ではないように感じている。
- ✓ ハード面有しているのが実現可能性の面で評価できる
- ✓ 代表の献身的な姿勢、実績、公益性はこれまでの取組も含めて伝わってきた。
- ✓ 申請書にも代表者の想いが伝わる一方で、当法人理事長という主語が多く、組織全体の合意形成が心配。
- ✓ 採択後の理事長の強力なリーダーシップは素晴らしく期待するところだが、地域含めてネットワーク、組織の広がりを展開できる体制かどうか読み取れなかった。
- ✓ 焼き芋がメディアに取り上げられていることは知っているが、フードバンク活動がこれからの段階で、この焼き芋がどのような役割を果たしていくのか、期待通りの役割を果たせるのか読み取れない。
- ✓ 連携面についても不安を感じる。
- ✓ 12月までの事業と時間が無い中で、具体が欠けている計画のように思える。協力者、組織基盤強化、フードバンク事業の構築など、諸々進められるかどうか不安。
- ✓ 社協にはコロナの貸付け関係で困窮者たくさん来ている。当事者支援、物資支援の数も増えてきている。そういったところとつながっていることは強みだと思う。福祉機能、ソーシャル機能はすでにあ

るところに任せつつ、物を提供するところに特化すれば、ネットワークでフードバンク事業を実施できると思う。

- ✓ 場を作るところまでは12月までに行けると思うが、食品掘り起し、会社とのやり取りなどはこれからと感じる。
- ✓ 焼き芋機については採算性など不透明な点が多いため採択は出来ない。ソフト関連の経費についてもいつからどのように実施するか検討が不十分なため、現在の資金計画をそのまま承認は難しい。
- ✓ 減額についてご理解いただけるのであれば、事業計画、資金計画を事務局(ひろしま NPO センター)の方でサポートしつつブラッシュアップして取り組んでほしい。